

4年間、地域の活性化と
暮らしの向上に全力投球

議員活動の前半(平成19～20年)を振り返って

例年にない寒波もようやく和らいでまいりました。富士北麓・東部の皆様におかれましては、本格的な陽春に向かってご健勝の日々を過ごされることを願っております。

私の県議一期目の任期も、あと僅かになりました。新人議員として頑張ることができたのも、皆様の温かいご支援と、ご理解のおかげさまだったと深く感謝しております。

このたびは、この約4年間、私の県議会での活動を振り返りながら、私たちの暮らす道志村や富士北麓地区の課題、将来へ向けての地域づくりのポイントなどについてご報告させていただきますことになりました。

まずは、任期前半2年間の議会における一般質問で、県当局に提案、要望した私の意見を紹介させていただきます。

任期は既に秒読みではありますが、県政与党の一員として最後まで活動していきたいとの願いを込めて、ご報告いたします。

白壁 賢一



お気軽にご意見をお聞かせください。

「白壁賢一」で検索してください!

白壁賢一

検索

TEL 0555-73-3737 FAX 0555-73-3757

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津1505

白壁賢一 公式サイト: <http://www.shirakabekenichi.jp/>白壁賢一 E-Mail: Shirakabe@kawaguchiko.ne.jp

【平成20年6月定例会(7月1日)代表質問】

初の代表質問、アンケートを
踏まえ要望と提言

平成20年6月定例会県議会で、当時の所属会派「自民党輝真会」を代表して、初の「代表質問」に立つ機会を得た。ちょうど代表質問に立つことが決まる少し前から、地域の方々

を主体に「白壁に取り組んでほしい課題」をテーマに、アンケート調査を実施しており、多岐にわたる意見を、以下の質問内容の参考にさせていただいた。

6月定例会質問項目

☆組織改革／重点的・戦略的な整備を

☆県立中央病院の経営形態の見直し／

政策医療の確保は万全か

☆産業集積に関して／地場産業の技術力向上策を

☆富士山の世界文化遺産登録について／

地元の不安と疑問の解消を

☆高校の整備構想について／

再編への主要な論点を示せ

質問と提言

組織改革について

知事は県経済の打開を指して「変える・やまなし／大胆改革宣言」を提唱、「山梨行政改革大綱」を策定して行政の機能アップに取り組んでいる。大いに評価できる施策ではあるが、この際、その実効性について注文をつけたい。最重要事項は、県民ニーズにスピーディに対応できる組織

への改革といつことに尽きる。現状を見ると、権限と責任が不明確なポストが数多く存在している。能力と実績を重視した人員配置はもうろんのこと、業務が重複している部署の整理など課題は多い。計画倒れにならないよう注文しておきたい。

県立中央病院の経営形態変更について

県立中央病院の平成19年度決算は、病院建物の減価償却費が原因で、16億円余の赤字となり、累積赤字は136億円余との報告がされている。経営改善は極めて困難な状況にあり、本年、病院形態を二般地方独立行政法人へ移行する方針を決めた。現状打開には不可欠な決定とは思われるが、県民からは、なじみの薄い制度に不安を感じる向きも多い。そのためには、新方式に移行した場合①救急医療、周産期母子医療など不採算部門の継



続②最新高度医療の継続③職員の公務員の身分の消滅④経営健全化への確たる論拠の提示等々、県民の不安解消に具体的な説明を願いたい。

産業集積について

知事の提唱する「暮らしやすさ日本」の実現のためには、産業活動を活性化し、県民所得の増加と税収アップが欠かせない。県は「企業立地基本計画」を策定し企業誘致を目指す

高校整備構想の策定について

県立高校の新たな整備構想が着々と進行している。この中で、県内の中学校卒業生数は、平成8年度と比べて、約1700人の減。平成34年度予測では、ピーク時の平成元年から半減するという。結果的には、科目選択幅の縮小、部活動への影響など深刻である。将来の生徒数を見据えた、具体的な計画が求められている。さらに県立と私立との役割分担など様々な課題の論



点を、早期に明確化していただきたい。

富士山の世界文化遺産登録に関して

している反面、最近、松下現バナンック、東京エレクトロニクスなどの本県内施設の開鎖、移転が相次いだ。県

施策に何かが欠けていると思わざるを得ない事態でもある。改めて、具体的、かつ本格的な対策、施策を望みたい。

富士山の世界文化遺産登録へ向けては、過日、富士河口湖町で4湖ごとの説明会が開かれ、質疑が交わされ、「現行法を上回る規制はない」との県側の説明に対しても、依然、根強い不安感がぐくまれている。さらに現状では市町村間の取り組みにも温度差がある。世界遺産への登録は、富士北麓の国際的グレードを高めるためには欠かせない事業である。地域全域のコンセンサス



を得るため、実のある県の調整を願いたい。

あなたのご意見をお聞かせください。

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津1505

✉ Shirakabe@kawaguchiko.ne.jp

【平成19年12月定例議会(12月13日)一般質問】

積極的な県政の展開を訴え 道志村や富士北麓地域の 観光政策を重ねて要望

県議になって2回目の本会議での質問は、前議会に続き、平成19年12月定例会で行った。前会の質問との重複はあるが、富士北麓の観光事業促進策を中心に、県政における各種課題について県の方針を質した。

12月定例県議会での質問項目

- ☆ 富士北麓における観光振興の展望を示せ
- ☆ 児童虐待の防止対策を現状は
- ☆ 30人学級の学年拡大へ規則改正を
- ☆ 国道413号の整備は不可欠
- ☆ 若彦トンネル完成へ整備計画の提示を
- ☆ 景観形成へ県としての取組みは
- ☆ 県におけるISO14001の実践状況は



質問と提言

富士北麓の観光振興
富士北麓は、山梨の基幹産業・観光の翼を担う中核地域である。周遊型から、滞在型へと移行した観光の形態変化の中で、県はどのような展望に立つて、各種事業に取り組みのか基本的な方針

児童への虐待防止策
前年の統計では、児童虐待による子供の死亡者数は全国で56人に昇っており、本県にとっても見過ごすことのない重要な課題であることから、本県としての対策を質した。子供の生命を守っていくための、児童虐待事例の早期発見と迅速な対応を再確認してもらうための内容とした。県からは「地域子育て支援センター」の整備促進、虐待の通報を受けてから48時間以内には家庭訪問を実施するなどの取組みを再確認してもらうた。

30人学級の学年促進
山梨県は、平成16年から、30人学級を基本とする「かがやき30プラン」を導入し小学校1・2年生で実施している。学校関係者、保護者双方から高い評価を受けているが、さらなる拡充の要望がある。

国道413号の整備
国道413号の整備については、前回の初質問でも取り上げたが、具体的な事業開始には至っていない。4・6号は、

「若彦トンネル」の完成後の整備
開通に向かって工事中の「若彦トンネル」は地域の要望がやっと実現するものだが、開通後の整備、活用計画に関しては、未知の部分が少なくない。特に、既設の甲府精進湖線と併せた、富士五湖地方への観光道路としての活用と更なる整備の必要性が指摘されていることから、前回に引き続いて、県の基本計画について説明を求めた。県からは、長期的に関連道路の整備等を検討中との回答を得た。今後も重複を恐れず、要望を継続したい。

景観整備への県の取組みは
国の「景観法」制定により、各種規制が許可される中県の「景観条例」も見直しの必要があるのではないかとこの問題提起を行った。例えば、富士山という同「景観エリア」内の隣接市町村を抱合した広域的な規制も課題となる

県庁におけるISO14001の実践
県は平成16年度、環境への影響を低減するためのISO14001を取得した。ただし、資格を取得しても実践されなければ無意味であるという観点から、その成果について説明を求めた。併せて、成果を挙げるためには職員の意識改革が欠かせないなどの注文を出した。県からは、本庁と出先機関をモデルとして、実績調査を実施しているとの回答を得た。

【平成19年9月定例議会(10月4日)一般質問】

国中と郡内の格差解消に向け 各種の提案と要望を訴え

初の定例県議会での質問項目

- ☆ 観光振興に対する取組みについて
- ☆ 河口湖精進湖線の整備見通し
- ☆ 富士北麓西部の畜産振興について
- ☆ 国際コンベンションの誘致促進を
- ☆ 財政再建へ指標の数値目標は
- ☆ 新たな高校の再編整備構想を

私は、4年前の10月4日、前月開会の9月定例県議会の本会議場で、県議就任後、初めての一般質問に立たせていただきました。私が県議就任間もなく参画した、「自由民主党・輝真会」は、県政与党として、私と同じく一期目を迎えた新県政を支えることを申し合わせた新人議員3名とベテラン議員を加えた合計4名による会

派でした。その姿勢としては「基本として新県政の政策を支持、地域の要望だけでなく、独自の施策を積極的に提言する」というものでした。

その申し合わせを踏まえての私の本会議での初質問は「富士北麓・東部地域が元気になることが、山梨全体の発展につながる」との主張を踏まえてのものでした。



質問と提言

観光振興について
平成17年度からスタートした「山梨ステイネーションキャンペーン」に関しての質問は、同キャンペーンがJR6社との協働を主とし、中央線、身延線沿線の観光客増加を狙ったものであることに対して、沿線以外の地域の対策についての取組みにつ

河口湖精進湖線の整備
当時、建設中の「若彦トンネル」と併せた道路整備に関して、観光と防災の両面から、更なる整備の充実と、県の方針を質した。若彦トンネルは河口湖北岸の大石地区で県道河口湖精進湖線に接続される路線で、同地区の観光事業に新たな可能性を開くものであり、単なるトンネルの開通に終わらせることなく、関連道路を含めた総合的な整備の必要性を訴えた。併せて、未だ狹隘な扇崎トンネル区間の早期整備を要望した。

富士北麓西部の畜産振興
特に富士ヶ嶺地区の畜産振興に対する要望として、この地域に県立の畜産試験研究施設の整備などにも、隣接の静岡県富士宮市との連携による牧草地景観の維持事業の推進を提案した。さ

国際コンベンションの誘致
国内の有数な観光地には、国際会議などの開催可能なコンベンション施設が整備されてい

県政の再建について
悪化傾向にある県財政に際して、職員数の見直し等を含めた、財政再建策のための具体的な県の方針の提示を求めた。財政再建に関しては、県政はもとより、各自治体にとっても避けては通れない課題が突きつけられている。やみくもに職員を削減するのではなく、場当たり的な増減をすることなく、長期的な数値目標を設定、それに沿って実施していくべきことなども要望した。

高校の再編整備について
県立高校の入試制度が全県下一学区方式に改定されたことに関連して、極端な少子化に関連する、総合的な入試制度の微調整などを求めた。また、現在も進めている

県庁の回答
各質問項目に対して、県当局からは前向きな回答を引き出すことができた。細部については、物足りない回答を求めたい。

併もあつたが、県政与党の立場から「更なる努力を」と要望した。今後も明確な回答を求めたい。

トの積極的な誘致を訴えた。県からは前向きな回答をもたらった。



平成19年 農政商工委員会での質疑